

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
小林大祐・山中千恵・島岡哉		shimaoka@jindai.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
織田 暁子		仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査演習 b	JNAa-110702-2	10人	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

島岡担当クラスは、それぞれが選んだテーマに従い、インタビュー調査を実施し、調査報告書を執筆した。前期は、主に、質的調査法に関わる文献、論文を輪読し、方法論から調査倫理にいたるまで、議論を重ねた。同時に、学生それぞれが対象を絞り込み、夏休みからプレ調査、本調査、追加調査を行い、報告書にまとめた。文字だけでは伝えきれないテーマや、現代的事象に関心を持ったテーマもあり、質的調査の難しさを、指導にあたった私も実感した次第である。

## II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

不可思議な事象・現象をインタビューから読み解く

2. 調査の内容／概要：

地域に生きる人たちの日常生活世界を、インタビューを行い分析する。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

福井県内在住者を対象とした。その中には、福井県への移住者、Uターン者なども含まれる。それぞれのテーマに従い、対象者を選定した。

4. 主な調査項目：

地域づくりを担う人々、現代文化を享受する人々、東日本大震災復興支援、など。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

フォーカス・グループ・インタビュー、ライフ・ストーリー法、地域でのフィールドワーク、資料収集

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2011年7月～2012年1月 10名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

執筆者とテーマにより、データの厚みが異なる。また、地域でのフィールドワークの場合は、インタビュー・データの背後にある社会構造、社会問題などに、どの程度迫れたかという点に関しては、ばらつきが見られることは否めない。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

インタビュー法。それぞれのテーマに応じて、データ・コーディングの方法を変えている。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

調査対象が多岐にわたるため、統一的な知見が得られたわけではない。だが、たとえば、女子力とはジェンダー化された力である、地産地消とよく言われるが地産他消が大事である、など、一般的な認識とは異なる知見が、人々の語りから導き出されている。

10. 報告書刊行の予定と概要：

他の担当者の報告書との合冊にて、2012年3月に刊行した。